

# 令和元年度 第1回伊賀・山城南定住自立圏共生ビジョン懇談会 議事録

|             |                                                                                                                                                                                                                                                                |
|-------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <b>開催日時</b> | 令和元年7月4日（木）14：00～16：00                                                                                                                                                                                                                                         |
| <b>開催場所</b> | 伊賀市役所5階 501会議室                                                                                                                                                                                                                                                 |
| <b>出席委員</b> | 久 隆浩（近畿大学総合社会学部）<br>河 治希（三重県伊賀地域防災総合事務所）<br>辻村 徳夫（京都府山城広域振興局）<br>奥田 詩織（社会福祉法人伊賀市社会福祉協議会）<br>高本 昌平（南山城村社会福祉協議会）<br>上出 通雄（伊賀市社会教育委員）<br>稲垣 八尺（一般社団法人伊賀上野観光協会）<br>中西 隆夫（一般社団法人観光笠置）<br>奥 伸也（伊賀市消防団）<br>松永 享二（島ヶ原地域まちづくり協議会）<br>仲北 悦雄（笠置町推薦委員）<br>大仲 順子（南山城村推薦委員）  |
| <b>欠席委員</b> | 友田 明石（西日本旅客鉄道株式会社大阪支社亀山鉄道部）                                                                                                                                                                                                                                    |
| <b>議事日程</b> | 1. 開会<br>2. あいさつ<br>3. 報告事項<br>伊賀市と山添村との定住自立圏の形成について<br>4. 議事<br>（1）平成30年度の事業実績及び今後の計画について<br>（2）今後のスケジュールについて<br>5. その他                                                                                                                                       |
| <b>議事概要</b> | 1. 開会<br>（事務局）<br>みなさん、こんにちは。ご案内の時間となりましたので、ただいまから2019（令和元）年度第1回伊賀・山城南定住自立圏共生ビジョン懇談会を始めさせていただきます。<br>本日の議事に入りますまでの進行を努めさせていただきます伊賀市総合政策課の月井でございます。どうぞよろしくお願いいたします。<br><br>本日の会議でございますが、委員の半数以上の出席をいただいておりますので、会議は成立しております。<br>なお、本日は、「友田委員」から欠席のご報告をいただいております。 |

本日の懇談会につきましては、原則公開とし、会議の傍聴を認めておりますことから、会議の傍聴、報道関係者の撮影等につきまして、ご理解を頂戴したいと存じます。

また、本日の会議録につきましても公開させていただくこととなりますので、ご理解のほどよろしくお願いいたします。

それでは、お手元の事項に沿って進めさせていただきます。

## 2. あいさつ

(事務局)

はじめに、本懇談会の会長であります久会長よりご挨拶を頂戴したいと存じます。

(会長)

みなさん、こんにちは。毎年 1 回必ずこの懇談会で評価をさせていただいていますが、今日もいろいろなご意見を賜って、よりビジョンの振興となるようにしていきたいと思っておりますのでどうぞ協力よろしくお願いいたします。

(事務局)

ありがとうございました。

それではここで異動等により委員の交代がございましたので、新しく委員になられた方のご紹介をさせていただきます。

まず、三重県伊賀地域防災総合事務所長 河 治希様、京都府山城振興局副局長 辻村徳夫様、島ヶ原地域まちづくり協議会会長 松永享二様、それから本日ご欠席でございますが、西日本旅客鉄道株式会社亀山鉄道部長 友田明石様も新しくご就任いただいております。どうぞよろしくお願いいたします。

次に、人事異動により一部事務局職員が代わりましたので改めて紹介させていただきます。

伊賀市企画振興部長の宮崎でございます。

同じく企画振興部次長の三枝でございます。

私、総合政策課長の月井でございます。

同じく総合政策課の竹森でございます。

同じく総合政策課の藤原でございます。

続きまして連携して取組を進めています、笠置町及び南山城村の事務局職員を紹介させていただきます。

笠置町総務財政課の岩崎課長でございます。

同じく笠置町総務財政課の柚木でございます。

南山城村総務課の山本課長でございます。

それから後程ご報告させていただきますが、今後、本定住自立圏に入られる予定の奈良県山添村の職員も本日はオブザーバーとして出席をしておりますので、紹介させていただきます。

山添村地域振興課の植田課長でございます。

同じく山添村地域振興課の井久保でございます。

同じく山添村地域振興課の松浦でございます。

それでは議事に入らせていただく前に、先に郵送させていただきました資料の確認をさせていただきます。みなさん今日は資料をお持ちいただいていますでしょうか。

#### ※配布資料の確認

資料の過不足はございませんでしょうか。

それでは、以降の進行につきましては、会長の方でお願いしたいと思います。よろしく願いいたします。

### 3. 報告事項

「伊賀市と山添村との定住自立圏の形成について」

(会長)

それでは引き継ぎまして私の方で事項書に沿いまして進めてまいります。

続いて、(3) 報告事項でございます。先ほどもご紹介がありましたが「伊賀市と山添村との定住自立圏の形成」について、事務局より報告いただきたいと思います。

—事務局から報告—

★資料1「協定項目一覧表（伊賀市・山添村）」

(会長)

事務局からの報告が終わりましたが、何かご質問等があればお願いします。

\*\*\*意見なし\*\*\*

(会長)

特に無いようですので、先ほどもご報告いただきましたように山添村さんに加わっていただきまして、本当に全国でも珍しい3府県にまたがる定住自立圏となりますので、全国のモデルになるような取り組みをどんどん進めていただければと期待しています。

それでは続きまして、議事に入らせていただきます。

#### 4. 議事

(1) 平成 30 年度の事業実績及び今後の計画について

(会長)

まず、(1) 平成 30 年度の事業実績及び今後の計画について、各部会より報告いただきます前に、事務局から資料の説明をお願いします。

—事務局から説明—

★資料 1-1 「事業計画・実績表」

★資料 1-2 「施策 K P I 一覧表」

よろしいでしょうか。様式の見方の説明をいただきましたので、続きまして、部会ごとの報告に移らせていただきたいと思います。それでは部会ごとに報告いただきたいと思います。

なお、ご意見・ご質問等については、すべての部会の報告が終わった後でまとめてをお願いします。

それでは、「医療・福祉部会」からお願いします。

★資料 1-1 「事業計画・実績表」により報告

(医療・福祉部会→教育部会→産業振興部会→環境部会→防災部会→  
交通・情報部会→インフラ部会→交流部会→人材育成部会)

すべての部会から報告が終わりましたので、全体を通して何かご質問、ご意見等がございましたら、承りたいと思います。かなり内容がたくさんございますが、何かご意見、ご質問等がありましたらお願いいたします。

(会長)

私の方から情報提供を兼ねてですが、空き家情報のお話がありましたが、私がお付き合いさせてもらっている中では、徳島県の神山町がかなり移住者をうまく引き込んでいます。神山町は神山町役場が頑張っているというよりは、NPO 法人グリーンバレーが頑張っているのですが、グリーンバレーの HP が非常に充実しています。「イン神山」という名前で HP を立ち上げていますが、前理事長とお話をさせていただく時に、非常にユニークなお話をおっしゃっていました。「ほとんどの市町村の空き家情報は、物件情報である」と。こういう所に物件があります。広さがこれぐらいで、値段がこれぐらいです。というような物件情報ですけれども、神山町は、物件情報ではなく、暮ら

し方情報を出しています。「こういう暮らし方をしている方がいます」や「こういう暮らし方をこの家でやってほしい」など。そういう暮らし方を発信することによって、魅力的な暮らし方をしている方が、その方の魅力でまた次の移住者を呼び込んでもらえるというお話をしていました。発信の仕方として、もうすでに移住している方が何人もおられるわけですから、こういう素敵な暮らしができているよということをどんどん発信していければ、ここに引っかかってくる方が増えてくるのではないかなと思いますので、また「イン神山」を参考にしていいただければと思います。NPO がかなり頑張ってくださっているということ、いわゆる Web デザイナーの方がちゃんとついているので、デザインの的にも素敵ですし、動画を通じて様々な今までの取り組みをわかりやすく発信していただいている、このあたりの効果がどんどん出てきているのかなと思っています。

他いかがでしょうか。

(委員)

3点質問があります。

その前に、生活をさせてもらっている中で救急・健康相談ダイヤル 24 や、また私は南山城村に住んでいるのですが、やまなみホールで伊賀市のポスターやパンフレットを見かけたら、この定住自立圏の意味があるのだなとすごくうれしく感じます。ありがとうございます。

一つ目の質問は、産業振興部会の 39 ページNo.2411 パンフレットの入れ替えの頻度について教えてください。具体的な内容が書かれていないのでどれくらいの頻度でされているのかという質問です。

二つ目は、26 ページNo.1521 のメダルプロジェクトについてですが、小型家電の処理をすることでメダルができるというプロジェクトですが、各地区市民センターに回収箱があるので、いつも見せていただいているのですけれども、今はイベントでの啓発ということになっているのですが、これを南山城村、笠置町に常設型でどこかに置くことができるのか、そういう検討はされているかということを伺いたいです。

三つ目です。交通情報部会の 35 ページNo.2113 公共交通ネットワークの構築について、最近社会情勢的にも免許の返納が言われている中、また高齢ドライバーの事故が過熱報道される中で、圏域住民に情報提供だけでいいのか。また、行政バスが走っている地域もあるのですが、地域運行バスの取り組みを進めていくことも書かれていますが、現段階では伊賀市のみの取り組みになっていると思います。他地域でも取り組む方向性があるのか、また、南山城村であれば●●バスが、私が住んでる地域でも走っているのは見かけるのですが、やはり乗車される方がいらっしやらない状況で、高齢の方も車を手放せないと言われている中で、こういった取り組みを今後考えているのかということも教えていただきたいです。以上です。

(会長)

それでは順番によろしくお願いします。

(産業振興部会長)

産業振興部会です。イベントのチラシやポスターをどんなふうに情報共有しているのかということですが、決まったルールは全然ないので、皆、四苦八苦しているという状況です。季節ごとぐらいにはそれぞれ情報共有しているのかなというのと、なくなったときは連絡をいただいたら用意して何とか手配する。現状は人海戦術でやっているところです。その辺りがこの定住自立圏の中で、当部会だけでなく他の部会も含めてルール化されて、定期便のようなものができればいいのかもしれないが、今のところは、チラシを作ったところが、置いているのが現状です。

(環境部会長)

環境部会です。事業No.1521 のごみの資源化推進事業の中の小型家電の処理を委託している事業者については、事業者が 5 月にふれあい感謝祭を実施されており、その中でブース出展ということで、伊賀市の方でブース出展をされている。部会としてそれに取り組めないかということ事業者に問い合わせたところ、そのイベント自体、伊賀市を対象としているため、部会全体の取り組みとしては、今回はなかったということです。今後それに参加できないかという呼びかけをしていこうと考えています。

(交通情報部会)

交通情報部会です。35 ページの件です。まず、免許返納について、なかなか笠置町、南山城村と伊賀市では状況が違うところがありまして、笠置町・南山城村については、免許を返納してしまうと、本当に生活に支障が出るという所で、免許返納については進んでいない状況。免許返納した場合の施策や補助等については笠置町・南山城村の方ではございません。交通については関西線を基軸としているという所でございますが、そこの各駅を結節点として各地域バスが現在走っています。笠置町または南山城村の中ではそれぞれの町内バスが走っています。それと先ほど話にありました 3 町村（笠置町・南山城村・和束町）で連携して、先ほどお話しした伊賀の●●に委託して走っているバスですが、南山城村の月ヶ瀬口から道の駅を経由し、国道 163 号をずっと西の方に来まして、笠置憩いの館、また最終 JA 加茂駅までを結んでいます。運航日が月・水・金・土になっています。9 人乗りになりますが、国道を軸として走っているバスなので正直そこまで来られないという方が多いのが現実です。ですので、1 便当たりの乗車数は正直少ないです。このバスについては、生活の足プラス南山城村でしたら道の駅、また笠置町でしたら笠置憩いの館という観光の場所も回るようになっているので、今後そういった生活の足だけでなく、観光方面でも周知していくという

のがこの3町村の地域バスに必要なところかと考えています。以上です。

(会長)

よろしいでしょうか。

今のお話を聞いていて、おそらくメダルの話とパンフレットの話は、別々に見えるけれど実は共通している話で、モノを運ぶという連携システムですね。ここをもっと連携していただければと思います。パンフレットもモノを運ぶ、定期的に運ぶ便をどのように確保するか、小型家電が回収 BOX に入れられたときにどういうルートで回収していくか、これもモノを運ぶことなので。情報はインターネットを通じて簡単に流れるようになりましたが、今度はモノを運ぶ定期的なシステムを充実させると先ほどの小型家電の回収もパンフレットの配布もいろんな形でうまくいくのかなと。そうすると1台のトラックが周るとそこに様々なモノを積むようなシステムを統一して作っていただくといいのかなと。さらに言えば、その便に空席があれば人を乗せていただくと先ほどの交通の問題の解消にもつながるわけだから、そういった合わせ技でモノや人を運ぶ定期的なルートを考えていただくとありがたいなと思いました。

ちなみに私は大阪の茨木市に住んでいますが、茨木市は、小型家電は市役所や公民館等様々な公共施設に常設の回収 BOX 置かれており、いつ行っても入れられるようになっていますので、その辺りは先程言った回収システムを作っていただくと、うまくいくのかなと思います。

それと公共交通の問題ですが、少しシビアな言い方になるかもしれませんが、ICTの活用という所に書かれているのが、広報紙とフェイスブックの話です。ここ数年でICTの技術はすごく進んできているので、このあたりも使いながら、公共交通の問題なんかも解決できないだろうか。また日本でもオールデマンド（自動運転バス）が走って、このようなへき地の所での、交通の利便性を高めていこうじゃないかということになってきています。そして、どんどん社会実験をやっています。新しい取り組みをするときは、ぜひともこの3市町村、もうすぐ4市町村になりますが、こういう所で手を挙げていただいて、積極的に取り組んでいただけるよう、そんなことを今後考えていただけたらというのもありますし、先ほどもありました高齢ドライバーの問題からも一人乗りの電動自動車の社会実験なんかも始まっている地域がございますので、その新しい取り組みを4市町村で今後積極的に取り組んでいただければ、かなりユニークな取組が社会実験から出来上がっていくのかなと期待していますので、そこも一言付け加えさせていただきました。

後いかがでしょうか？

(委員)

誠に申し訳ないが、41 ページNo.2521 の空き家情報をお聞きしたい。笠置町の空き家

バンクで貸し家を探そうとしていろいろやったが、空いているが仏壇等があってなかなか貸せない、というのが現状だと思います。すぐに売れるところは不動産会社が転売してくれると思うが。29年度は38件、30年度は64件と26件増えている。各市町村の内訳を教えてください。中身があるから貸すのは無理じゃないかなと思うが、その辺りの詳しい情報を教えていただけたらと思います。

(会長)

ありがとうございます。いかがでしょうか。

(交流部会長)

お答えさせていただきます。

内訳としては、笠置町1件、南山城村12件、それ以外は伊賀市というところですね。

そして、内容は、伊賀市では移住者に対して「伊賀市移住促進空き家取得費用補助金」というものがありまして、申請書からの情報ですが、案外しっかりした物件が多いかなと。たまにかなり直さないと入れないかなという物件があつてリフォーム代がすごくかかったという方もいらっしゃるのですけれども、やっぱり今委員さんがおっしゃったように、内覧などをしっかりした上で、決めていただいているので、集約している空き家については、比較的手直しせずに住んでいただける物件が多いように思います。

(委員)

それは新しい物件か、古い家かそのあたりはどうか。

(交流部会長)

旧の一軒家、団地のようなプレハブではなく、一軒家の物件が多いと思います。

(会長)

よろしいでしょうか。

私は空き家対策も各地でお手伝いをさせていただいております、2点情報提供させていただきます。

1点目は、新しい方がいいのか、古い方がいいのか、ということだが、神山町の方と話をしている中で面白いことをおっしゃっていたのは、同時に2件空き家が出たんですね、ほとんど手直しせずに住めるところと、ボロボロになっているところがあつて、当然前者のしっかりしたところをお借りいただけたらと思っていましたが、意外にボロボロの方を選ばれたらしい。その借りた方にお聞きするときちんとしているところは、やはり持ち主さんが手を入れると言われるだろうと、ボロボロだといろいろ手が入られる。ですから自分の金をかけて直せるから、そっちの方を選びました。という

ことがありました。だから必ずしもしっかりしたものがいいということでもない。自分で直したいという方にとっては、そこそこ住める感じであれば、内装や構造は直しますよ、という方もおられます。

(委員)

会長、金額も結構安いですか？

(会長)

そうですね。

2点目ですが、今日は山添村さんが来られていますけれど、山添村でも効果が出ています。NP0 法人空き家コンシェルジュさんというのが奈良を中心に空き家の仲介をやってらっしゃるのですけれども、この空き家コンシェルジュさんがなぜうまくやっているかという、いろんな条件を貸主さんと借主さんの間で調整してくれているのですが、先ほど委員がおっしゃった仏壇の問題で非常に面白い物件がありまして、法事があるからお盆の3日間だけはここの家を使いたいという話があって、3日間だけのことで貸せないという話になった。そうすると空き家コンシェルジュさんが間に入って来て「ここはそういう条件ですよ」と。だからお盆3日間はどこか旅行に行ってもらって、空けてください、という条件でお借りいただいている、というところもある。先ほども言いましたように物件の紹介だけじゃなくて、暮らし方の中身まで踏み込んで調整していただいているので、成約件数が増えていっている。こういうきめ細かなところをだれがどのようにやっていただけるかというところが勝負です。NP0 法人だからそういう細かいところもやっていける、さらに言えば、「うちはずっと空き家でモノもいっぱいなんや、貸せないんや」とおっしゃられるところは、「じゃあ私たちが整理させていただきませんか」ということで、まず整理をしていただく業者さんに入っていて整理をしてお貸しになるとか。貸せない条件を一つ一つクリアするようきめ細かなサポートをされている。ここができるともっともっと成約物件が増えていくのではないかと思います。

後いかがでしょうか？

(委員)

まだ3年あるのですけれど、優秀で、すでに目標値を達成している事業がありますよね。これは精がないだろう。もっと新しい目標を作ってもらった方が、やる気出るでしょう。上方修正しないのですか。もうすでに目標値に達成している物産の売上等、えらくしっかり売ってくれていますが、まだ3年あるから。どうでしょう。

(会長)

はい、いかがでしょう。

(事務局)

今年、山添村さんが入られて、ビジョンの見直しをさせていただきますので、その際にすでに達成できているものについては、新たなものに変えていくとか、目標値を上げるとかそういったことも考えていきたいと思います。

(会長)

はい、よろしくお願いします。他いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは私の方から全体を通して、何点かお話をさせていただけたらと思います。

一つは、今回の評価は二つの評価軸があると思うのですが、「事業そのものの効果」という問題と「連携の効果」という問題がある。これは両方がうまく整理されている書きぶりと混然一体となって書いているところがあるかと思いますので、今年度の評価をされる時は事業としては、うまくいっているのかいっていないのかと、連携をした効果、単独でやっているよりも連携した効果がどういう所に出ているのかを2段階構えて評価していただくと非常にわかりやすくなるのかなと思っています。具体的には最初の1ページが典型例ですが、ダイヤル24の評価で確かにその効果として、2千数百件出ているが、笠置町が2件で南山城村が20件ということであれば、ほとんど伊賀市の方がお使いになっているということなので、ここは全体として、事業効果はあるのだけれども連携という意味では南山城村、笠置町の方々にお使いいただかないと。それを合わせてくると「A」でいいのでしょうか。というところが気になります。これは一つの典型例ですけれども、他の事業も今年度の評価の時は、その辺りうまく仕分けをしながら評価をしていただきたいと思うのが1点。

それとそういう連携の評価で見れば、連携はそもそも難しいのではないかと思われる事業がいくつかあります。例えば保育の一時預かりや放課後児童対策で等は、やはり近隣にサービスがないとお使いいただけない場合、連携をしたとしてもなかなかうまくいかない。例えば伊賀市の方が笠置町に子供を預けに行くというのはどう考えてもこれはしんどいわけですから、近隣サービスを連携するというのは、そもそもしんどい部分があるのではないかと思いますので、このあたりについて事業を継続するのか、一旦、山添村さんが入った段階で事業仕分けをする中で中止するのか、その辺り思い切った判断がいるのかなと思いました。逆に、同じような子供預かりでもファミリーサポート事業というのは預かる方と預けたい方のマッチングをするのでこれはシステムとしては共有できますね。このようにサービスそのものを共有する場面とシステムとして共有して、ご近所同士のつながりを作っていくタイプというのは少し違うので、システム共有は、可能性としてはまだまだあるなと思います。そういう意味では私なりに連携のタイプというのが整理できるのではと思って考えてまして、例えば観光のような資源のネットワーク化でつなげていこうというタイプが一つ、それぞれ

別々に持っている資源をつないでいくことによって何か魅力アップするような資源のネットワーク化の連携。それからサービスや施設を共有して使っていくということ。それぞれの市町村が別々に持っているよりも共有することによって効率的に使えるというものがあると思います。3つ目は、システムやノウハウを共有することによって、一つの市町村がやるよりも同じシステムに乗っかっていった方が効果的にいくというタイプがあると思います。このようにタイプを少し整理していただくと他にも可能性があるのではないかとこのように見えてくると思うので、その辺り、うまく今後の展開を考えていくといいのではないかと思います。特にサービスや施設の共有を考えていくときに実は ICT というのがとても重要になってきて、例えばスポーツ施設の話が出ましたが、リアルタイムで伊賀市の方がテニスコートを使いたいと、でもこの時間帯は伊賀市もいっぱいになっていると、ところが南山城村に行ったら空いているというのがリアルタイムでぱっと見られれば、共有した効果が出てきますのでこういうときにこそ ICT を活用してその連携システムを強化していただければと思います。ただ、今度、奈良県の山添村が入ってきますので、それぞれ使っているシステムが府県によって違う可能性があるのも、そこを合わせていくというのは難しいかと思いますが、今は、うまくシステムを読み替えるソフトやシステムもありますので、そこら辺を考えていただくというのがまさに ICT の使えるところかなと思いますので、まず情報の部分でうまく情報ツールを使いながらしていただければと思います。

さらに言えば、最近では行政の中でも AI が取り入れられることが増えてきました。ただし AI を取り入れようと思ったら初期費用もかなりかかります。こういう時はまさに 4 市町村が手を組んで同じ AI システムを導入することで、初期費用を一つ一つの市町村は軽減することができるので、そのあたりうまく考えていただければ嬉しいなと思います。

最後ですが、私は市民活動の支援もやっていて、伊賀市はすでに市民活動支援センターをお持ちですが、なかなか町村のレベルになってくると単独で持つというのはかなり難しいわけです。私は兵庫県の川西市の市民活動センターの指定管理を受けている NPO をやっているが、お隣に猪名川町があります。猪名川町は自らセンターを持つことはできませんので、川西市の市民活動センターで相談をいただいたり、様々な講座を受けていただいたりということをしています。このようにかなり専門性の高い支援で、これから新しく必要になってくるような具体的な機能は、共有するということをもっともっとあってもいいのかなと思いますので、そんな観点で考えていくと他の何か専門的な支援やサービスを共有できる部分もいくつかあるのではないかなと思いますので、その辺りもちよっと考えていただければなと思っています。以上私からの情報提供を兼ねてのお話でしたので、また、今年度以降の展開で参考にいただければと思います。

あと、いかがでしょうか？ よろしいでしょうか。それでは今後も今日いただいたご

意見も参考にさせていただきながら取り組みをより充実させていただきたいと思います。

(2) 今後のスケジュールについて

(会長)

それでは(2)今後のスケジュールについて、事務局より説明いただきます。

—事務局から説明—

★資料3「今後のスケジュール」

(会長)

先ほども説明いただきましたように今年はビジョンの変更がございますので、懇談会の開催も例年に比べて多めに開催させていただくということで、よろしくお願いします。

先ほどのスケジュールに対しまして、何かご質問、ご意見等がございましたら、お願いいたします。

先ほどご意見いただきましたように、ちょうど中間的な年で、ビジョンの見直し変更がありますので、それも含めて、全体的に見直していただけたらと思います。

それでは、これでスケジュールのご了解もいただきましたので、また懇談会の日程等も後日お配りさせていただけたらと思います。

それでは、これで予定しておりました議事をすべて終了させていただきます。どうもありがとうございました。それではこれ以降は事務局へ進行を戻しますのでよろしくお願いします。

#### 4. その他

(事務局)

会長、どうもありがとうございました。

それでは、最後に4. その他に入らせていただきます。

議事以外の部分で、会議全体を通して委員の皆様から、何かご質問、ご意見等がございましたらお願いいたします。

それでは、事務局から事務連絡をさせていただきます。

—事務局から事務連絡—

事務局からは以上でございます。

これをもちまして、本日の会議を終了させていただきます。どうもありがとうございました。

|  |                |
|--|----------------|
|  | － 16 : 00 終了 － |
|--|----------------|